

西中の風

継続と徹底

伊丹市立西中学校長

大西 規之

ご卒業おめでとうございます

3月11日（木）に第72回卒業証書授与式が挙行されます。153名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。それぞれの胸には、様々な思い出が一杯だと思います。楽しかったこと、つらかったこと、一杯あったと思いますが、それも今はよき思い出です。3年生の皆さんはいつまでも伊丹市立西中学校の卒業生です。素晴らしい夢と希望を持って卒業してください。また、卒業後も西中学校を訪ねてきてください。ご多幸を祈念しております。

さて、最後に皆さんに送る話を2号に分けて伝えたいと思います。今後の人生の参考にしてください。

印象に残る生徒

毎朝校門に立ってあいさつしたり、授業や学活の様子を見て回ったりして、今の西中生を見てみると本当に素直で純真だなとつくづく感心します。この生徒たちがいずれ大人となり、伊丹市や日本を背負っていく人材になるのだなと併せて思います。また、生徒1人ひとりには大きな可能性があり、将来のイチロー選手、将来の有村架純さん、将来の〇〇さんがたくさん西中にいるかと思うとドキドキします。

この仕事をしていて「なんてすごいんだ」と日々生徒から学ぶことが多いです。たいへんな反面、この仕事を選んでよかったなと思います。そのような中で、私の長い教員生活を振り返ってみると、印象に残る生徒の顔がいくつか思い浮かびます。その中でも特に2人が印象的です。今から30年近く前、市内の中学校で野球部の顧問をしていたときの部員

A君とT君です。

（※野球に詳しくない人には申し訳ないです）

（1）A君から学んだ前向きであきらめない姿勢

A君は小学校から野球をしていて、たいへん上手なショートの選手でした。練習試合をしても相手チームの監督から「ショートの子は上手ですね」といつもほめられていました。しかし、3年生の春に小学校から酷使してきたせいでしょうか、右肘が痛いと言い出しました。そしてついに決断して右肘の手術を受けることになりました。大阪の有名な病院での手術も無事終わり、5月のゴールデンウィーク明けにお母さんと一緒に私のところへ挨拶に来ました。医者からは「もうボールは投げられないだろう」と言われ、本人はお母さんのそばでぼろぼろ泣いていました。私は何も言えず、ただ、「引退までマネージャーでも何でもいいからチームの支えになってくれ」と言うのが精一杯でした。この生徒は性格が明るくとても元気のいい生徒でした。だから、きっとこの苦境も必ず乗り越えてくれるものと確信していました。

その確信が早く実現するとは、この時は思ってもいませんでした。それは、手術が終わって何日かたったある日の練習でした。ノックの守備練習でしたが、当時私は声を多く出す選手、元気な声を出す選手から優先してノックすることにしていました。その日の練習で私は目を疑いました。A君がグラブを右手（右肘を手術したため左で投げる練習をするため）にはめ、ファーストのポジションに立って大きな声で「バッター打ってこい」と私に叫んでいるのではないですか。私は一瞬唖然としましたが、気を取

り直して選手たちとの約束どおり、大きく元気な声を出しているA君を優先してノックしました。この日からこの状態のノックが何日も続きました。そうするとみるみる守備がうまくなり、左投げでもワンバウンドでサードまでボールが投げられるようになりました。

そして、7月になり、3年生の引退がかかる、そして全国大会へとつながる総体が始まりました。5月には私から「マネージャーでも・・・」と言われたA君。それが1番ファーストとして、れっきとしたレギュラーで出場することになりました。試合の結果は、市内総体準優勝で阪神総体でも1回勝ち、ベスト8まで進むことができました。

医者からは「もうボールは投げられないだろう」と言われたA君でしたが、高校へ進学して右でボールも投げられるようになり、1年生の時には甲子園でベンチ入りもしました。「100人近くいる部員の中で、なぜ1年生でベンチ入りができたのか？」との私からの問いに、「練習中に一番大きく元気な声を出していたからです」と元気に答えてくれました。中学での大きな声を出す練習の成果が出たのだと思いました。高校3年生では夏の甲子園にサードのレギュラーとして出場し、強豪校を次々に倒してベスト8まで進みました。今は広島の高校の野球部の部長をしています。逆境に負けない「本当にすごい生徒だな」と今でもつくづく思います。

私がこの生徒から学んだことは、①あきらめないこと ②元気に前向きに生きること この2つです。今まで、いろいろなところでこの話をしてきました。常々私もこの生徒のような生き方をしたいと思っています。本当に子どもって素晴らしいです。



ホームページを日々更新中！！